

第1期中期目標期間の達成状況に関する評価結果

茨城大学

平成23年5月

独立行政法人大学評価・学位授与機構

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のうち、1項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(参考)

平成16～19年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のうち、1項目が「良好」、3項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 教育の成果に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成16～19年度の評価結果は「教育の成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標（5項目）のうち、4項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、4項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「学業の成果」「進路・就職の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画「大学での基礎教育を、高校までの教育との接続を配慮したものにする」、「生命科学や環境科学についての基礎知識・技術を修得させ、卒業後の専門性が発揮できる教育を行う」及び「科目の特性に応じたクラスサイズの設定や学生の習熟度を配慮したクラス編成と授業内容にする」について、理系基礎教育及び総合英語プログラムの習熟度別教育を実施したこと及び、現代的教育ニーズ取組支援プログラム等の展開により社会で専門性を発揮できる人材育成等のカリキュラムを施行したことは、教育の実質化が図られ、教育成果が上がり、学生の評価も高い点で、優れていると判断される。

② 教育内容等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育内容等に関する目標」の下に定められている具体的な目標 (13 項目) のうち、1 項目が「非常に優れている」、3 項目が「良好」、9 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「非常に優れている」、4 項目が「良好」、8 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育内容」「教育方法」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>**(優れた点)**

- 中期目標「厳正な成績評価を行って教育の質の向上を図る」について、成績評価基準の明示、年間の申請単位の上限設定を実施して質の確保を図っているほか、グレード・ポイント・アベレージ (GPA) を全学年へ適用して、履修指導や大学院への進学指導等に活用していることは、優れていると判断される。
- 中期計画「学士課程教育との有機的な接続に配慮しつつ、適切な教育内容やレベルを設定して、課題探求力を備えた学生を育成する」について、平成 20 年度に大学院教育改革支援プログラムに「地域教育資源開発による高度教育専門職養成」が採択され、「地域理解」を深めながら、大学院生の「教科指導力」及び「コミュニケーション力」を育成しているなど、複数の研究科で特色あるプログラムが展開されていることは、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画「特色ある教育・研究プログラムを提供して、入学者の増加を図る」及び「学外研究機関との連携を広く進めて、専門性と総合性を身につけた高度な専門職業人を育成する教育プログラムを充実する」について、サステナビリティ学研究所の推進のため、茨城大学地球変動適応科学研究機関 (ICAS) の教育プログラムや農学分野の大学院教育改革支援プログラムを実践していることは、特色ある取組であると判断される。
- 中期計画「院生の外国語能力や発表能力の育成に努め、国内外の学会、シンポジウム等に参加させて、研究発表や討論の体験を奨励する」について、学生が計画から運営まで行う学生国際会議を継続して開催していることは、特色ある取組であると判断される。

(顕著な変化が認められる点)

- 中期計画「学士課程教育との有機的な接続に配慮しつつ、適切な教育内容やレベル

を設定して、課題探求力を備えた学生を育成する」について、平成 16 ～ 19 年度の評価においては、「おおむね良好」であったが、平成 20、21 年度の実施状況においては、「良好」となった。（「優れた点」参照）

③ 教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由） 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（7 項目）のうち、3 項目が「良好」、4 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、3 項目が「良好」、4 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育の実施体制」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>

（優れた点）

- 中期計画「学内の各教育組織の見直しを行うとともに、教職員の教育への適切な配置を促進する」について、すべての学部で教育カリキュラムと教育組織の見直しを行うとともに、学科を改組して適切な教員の配置により学士課程教育の充実が行われたことは、優れていると判断される。
- 中期計画「学生による授業評価と教員による教育評価を総合的に分析して、改善策を立案・実施するシステムを構築する」について、学生による授業アンケートと教員による教育の自己点検評価、ファカルティ・ディベロップメント（FD）の開催や外部評価等の実施により、教育の質の改善策を立案・実施するシステムを充実したことは、優れていると判断される。

④ 学生への支援に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由） 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（8 項目）のうち、3 項目が「良好」、5 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、3 項目が「良好」、5 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画「課外活動の活性化に努力する」及び「学生及び留学生向けの宿舎の利活用について点検を行い、運営の改善に努める」について、学生表彰の人数が極めて多いことは学生生活に対する意識や意欲が高い表れであり、また、国際交流会館の増設等留学生の支援が充実していることは、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画「留学生からの学業や生活に関する相談体制を強化し、カウンセリングや研究指導体制を改善する。さらに、学生チューターによる支援体制を点検し充実を図るとともに、日本人学生との交流を活発に行う」について、ステューデント・アシスタントとして採用した留学生を、留学交流課に配置し、翻訳等の補助業務にあたらせることにより、業務の円滑化が図られていることは、特色ある取組であると判断される。

(Ⅱ) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標（2項目）のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(参考)

平成16～19年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標（2項目）のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成16～19年度の評価結果は「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（4項目）のうち、1項目が「非常に優れている」、1項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、1項目が「非常に優れている」、1項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」とし、これらの

結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「研究活動の状況」「研究成果の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

- 中期計画「いくつかの分野で研究拠点となるべき重点研究を育成し、高い水準の研究を行う」及び「環境の保全に関わる学際的な教育研究の推進と技術開発を行う」について、サステナビリティ学研究等を重点研究分野として位置付け研究拠点を整備するとともに、温暖化対策で国際的な研究を推進するなど質の高い研究活動が展開されていることは、優れていると判断される。

（特色ある点）

- 中期計画「いくつかの分野で研究拠点となるべき重点研究を育成し、高い水準の研究を行う」について、平成20年度にフロンティア応用原子科学研究センターを設立し、「県 BL 開発研究部門」での「茨城県生命物質構造解析装置 iBIX」における新型検出器の開発とタンパク質の中性子データ取得や、中性子構造解析に成功したことは、特色ある取組であると判断される。

② 研究実施体制等の整備に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

（判断理由）平成16～19年度の評価結果は「研究実施体制等の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標（10項目）のうち、1項目が「非常に優れている」、3項目が「良好」、6項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成20、21年度の達成状況を踏まえた結果は、1項目が「非常に優れている」、3項目が「良好」、6項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

- 中期計画「知的財産の創成と管理及び活用を図る拠点として知的財産管理部を形成する」及び「共同研究を推進する」について、共同研究開発センターに研究支援室を設置して、知的財産部門と共同研究等の受入れ窓口の一元化による体制の強化を図るとともに、近隣研究機関との共同研究を推進した結果、共同研究・受託研究数が著しく増加したことは、優れていると判断される。

（特色ある点）

- 中期計画「学士課程の教育組織から教員組織を分離し、柔軟に研究組織を編成できる体制とする」について、学士課程の教育組織から教員組織を分離し、教育組織を学部、教員組織を学野とする学部学野制の導入により、研究グループの構築が柔軟に行

えるシステムを整備したことは、特色ある取組と判断される。

(Ⅲ) その他の目標

(1) 社会との連携、国際交流等に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（1項目）が「おおむね良好」であることから判断した。

(参考)

平成 16～19 年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（1項目）が「おおむね良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 社会との連携、国際交流等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16～19 年度の評価結果は「社会との連携、国際交流等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（8項目）のうち、4項目が「良好」、4項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、4項目が「良好」、4項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画「北関東 4 大学連携や近隣 3 大学連携を継続し、共同で行う事業等で連携する」について、4 大学大学院連携協議会を設置して、その下に専門検討部会を設け、事業の具体化を図り、また、四大学共同大学院教育プロジェクト「先導的 IT スペシャリスト育成プログラム」が、日本経済団体連合会による拠点協力校候補として選ばれるなどの実績を上げていることは、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画「地域貢献と地域連携の拠点となるよう本学を整備する」について、社会連

携事業会と学内の地域連携推進本部の二つの組織が事業運営の両輪となり、地域貢献の体制を構築し、地域から期待される大学としての取組を進めていることは、特色ある取組であると判断される。